

石川県海洋漁業科学館中期経営目標

(実施期間 平成30年度～平成34年度)

平成30年3月 策定

1 施設の設置目的

本施設は子供から大人までを対象として、本県の海洋及び水産資源に関する知識を普及し、県内水産業の振興に寄与することを目的に、水産総合センターの附属施設として設置されています。

2 施設の果たすべき役割

本施設は、映像やクイズなどで楽しみながら学べる展示物や、海に由来する素材を利用した工作教室の開催により、海の生き物や漁業の大切さへの理解を深める機会を提供することを役割としています。

3 事業内容

(1) 展示活動

- ・日本海のコーナー： 立体グラフィックにより日本海の構造を解説します。
- ・魚の生物学コーナー： アクリル樹脂封入処理した実物標本や模型等により、魚の成長や年齢、魚のからだや泳ぎ方、泳ぐ早さについて学びます。
- ・漁業コーナー： 映像によって学ぶ石川県の各種漁法や定置網の構造、資源管理ゲーム、パソコン操作で学ぶお魚Q&Aなど、楽しみながら水産業の知識を深めてもらいます。
- ・オーシャンシアター： タイムマシンに乗って未来からやってきた海賊ノット船長と、機関士スコンバーの二人のキャラクターが能登の海を旅する映像により、新鮮な目で見た現代の石川県の海と漁業の様子を解説します。(放映時間：23分間)

(2) 工作教室開催

本物のスルメイカでとっくりを作る「イカとっくり」をはじめ、海藻おしばで作る「海藻しおり」や貝殻を使った「壁掛け」など、海に由来する素材を使った30分間程度でできる無料の工作教室を開催します。

4 現状と課題

(1) 施設の利用促進及びサービス(満足度)向上について

- ・ 現中期経営目標（H27～29）に基づき、入館料の無料化、展示内容の充実、水産総合センターと連携した体験プログラムの提供などを行ってきた結果、平成26年度以降利用者は増加してきました。また、満足度についても高い評価をいただいています。

しかし、施設の老朽化が進み、展示施設の機材についても既に交換部品がないものもあり修理に支障をきたしていることから、今後は代替えの展示についても検討していく必要があります。

- ・ PR活動については、地元の保育園、小・中学校、公共施設、商店街などへチラシ配布を行うとともに、能登少年自然の家などを利用する金沢市及び周辺市町の小学校などへの施設案内の送付、道の駅でのチラシ設置の拡大に取り組んできました。さらに、金沢地区においては、県庁舎や漁協が運営するレストラン「旬魚亭」にもチラシを設置し、誘客PRを行ってきました。

今後も施設の認知度向上に向けてPR活動を拡大する必要があります。

(2) 施設運営の効率化について

これまで節電・節水などにより、施設管理費の節減に努めてきたところですが、こうした取り組みを継続していく必要があります。

5 中期経営目標

(1) 中期経営目標

- ① 入館者を5年間で基準値から7%増加させます。
- ② 利用者アンケートによる満足度は、引き続き95%以上を維持します。
- ③ 利用者1人あたりの一般財源投入額を5年間で基準値から7%削減します。

(2) 測定指標と目標値

測定指標	基準値 (H26～28平均)	中間目標値 (H32)	最終目標値 (H34)
① 入館者数	6,123人	6,430人	6,550人
② 利用者アンケートによる満足度	95%	95%以上	95%以上
③ 利用者1人あたりの一般財源投入額	502円	476円	467円

6 目標達成に向けた具体的な取組内容

(1) 施設の利用促進及びサービス(満足度)向上に向けた取り組み

① 館内施設の有効利用の強化

研修室やオーシャンシアターの地域活動グループなどへの利用促進を継続するほか、新たに、地元の能登町にある金沢大学臨海実験施設や(一社)能登里海教育研究所といった教育機関と連携し、同団体が行うセミナーなどを当館で開催するなど、館内施設の有効利用を強化します。

② 地域イベントとの連携

「宇出津港のと寒ぶりまつり」や「宇出津あばれ祭り」など、地元の能登町で開催される地域イベントと連携した関連行事を行います。

また、「能登小木港イカす会」や「のと里山空港クリスマスイベント」などのイベントに参加し、現地で出張工作教室を実施します。

③ 水産総合センターとの連携の強化

水産総合センターで生産している稚魚などを活用した、ふれあい・観察教室や放流体験などを行うほか、地元の海藻で作る「ところてん作り教室」など、親子で楽しみながら本県の海や川の魚、海藻などに関する生きた知識が学べる体験プログラムを提供します。

また、同センターが主催する講習会においても、科学館の展示を使ったカリキュラムを組みます。

④ 展示内容の充実

国の重要無形民俗文化財の指定を受けた、「輪島の海女漁」に関するパネルの展示を行うなど、本県の水産業の魅力を発信していますが、加えて、底びき網漁やズワイガニ漁の解禁、寒ブリ漁のシーズン到来時など、旬な話題についても適宜パネル展示などを行います。

この他、クイズや「海や魚の不思議」などのコーナーを新設し、内容の充実に取り組みます。

⑤ 情報発信・PRの強化

地元の能登町に加え、近隣市町への情報発信を強化するとともに、県ホームページのイベント情報への掲載など、あらゆる媒体を駆使してPRに取り組みます。

また、他団体が行う各種イベントに出向き、当館のPRを行います。

(2) 施設運営の効率化に向けた取り組み

- ・光熱費、消耗品費などの節約など、管理コストの節減に取り組みます。

参考資料(施設の利用状況など)

(1)利用指標(利用人数、稼働率などの状況)

(単位:人)

項目	H 2 6	H 2 7	H 2 8
入館者数	5,932	6,178	6,259

(2)利用者アンケート指標(利用者サービス、施設の維持管理)

(単位:%)

項目	H 2 6	H 2 7	H 2 8
良い	80	59	67
概ね良い	12	48	29
計	92	97	96
やや悪い	8	3	1
悪い	-	-	3

(3)使用許可等の状況

(単位:件)

項目	H 2 6	H 2 7	H 2 8

(4)使用料の収入実績

(単位:千円)

項目	H 2 6	H 2 7	H 2 8
入館料	456	無料	無料

(5) 収支の状況

(単位:千円)

		H 2 6	H 2 7	H 2 8
歳出	職員費	4,738	3,657	3,627
	施設管理費※	3,546	3,017	3,039
	工作教室開催費	13	39	30
	計	8,927	6,713	6,696
歳入	入館料	456	無料	無料
	国庫補助金	0	0	0
	一般財源	7,841	6,713	6,696
	計	8,927	6,713	6,696

※ 施設管理費の一部(警備委託料や光熱水費)は、水産総合センターと区分できないため、過去に調べた比率で案分した額としています。

(6) 利用者1人あたりの一般財源投入額

(単位:千円)

		H 2 6	H 2 7	H 2 8
一般財源投入額(千円)	①	7,841	6,713	6,696
職員費を除いた額 (千円)	①'	3,103	3,056	3,069
利用者数(人)	②	5,932	6,178	6,259
利用者1人あたりの一般 財源投入額(円)	①÷②	1,322	1,028	1,070
職員費除き	①' ÷ ②	523	495	490